

スザンヌ・ディール・ブース

Suzanne Deal Booth

慈善家、アートアドバイザー、コレクター／アメリカ

文／塩原将志

(アートコンサルタント・アートディーラー)

7



オースチンのアパートにて。頭上にはPae White、奥の壁にはCharline von Heylのペイティング、椅子はFernando and Humberto Campanaによるもの。

今回で紹介するスザンヌ・ディール・ブースさんには、「アートコレクター」の一言では表せない多様な顔があります。もちろん個人としても素晴らしいコレクションをお持ちですが、スザンヌさんは企業コレクションをつくるアートコンサルタントの仕事もなさっていました。個人コレクションが作品への愛や感動を基本として成り立っている一方で、企業コレクションは、ジェンダー、セクシャリティ、政治や人権問題などへの配慮も必要で、その限られた方針のなかでいかによいコレクションをつくるかの手腕が問われます。こうしたふたつの面をお持ちであることを知ったうえで、今回、私がかたく取り上げたいと思ったのは、スザンヌさんの「慈善家」としての一面です。その活動をもっとも象徴するの

が、2012年、ご自身の出身大学であるヒューストンのライス大学に、スザンヌ・ディール・ブースの名を冠したバウイリオンをつくり、ジェームス・タレル (James Turrell) のインスタレーション「Twilight Epiphany」を寄贈したことです。このタレルの作品の下では、イベントやコンサートが開かれるだけでなく、学生たちがランチをしたり、対話を楽しんだりという光景が日々見られます。アートを、未来ある学生たちが集まる学内に設置することで、日々体験させ、文化に触れる機会を増やそうという慈善活動であり、私は、大変感銘を受けました。スザンヌさんと出会ったのは、今年2月ボスコ・ソディ (Bosco Sodi) の設立したアート施設 Casa Wabi (http://casawabi.org) での加藤泉さん個展オープニングの食事会でした。たまたま目の前に座ったスザンヌさんからナパ・バレーにワイナリーをお持ちだと聞きました。私はボスコから彼の大きなインスタレーションがナパ・バレーのとあるワイナリーにあると聞いていて、是非見たいと思っていました。もしかして?と話をふったところ、「あっそれ私のワイナリーよ」と笑。それから話は弾み、スザンヌさんのこれまでの活動を興味深く聞くことができました。ボスコの作品が私たちをつなげてくれたのです。聞けば、スザンヌさんは20代から40代の約20年間、ジェームス・タレルの

アシスタントをしていたそうです。MOMA PS1に勤務していたスザンヌさんは同館で1980年最初のSPAAMを制作するタレルと出会います。タレルはテキパキと仕事をこなす有能なスザンヌさんをアシスタント迎えたいと申し出たそうです。その後タレルの最大級のパトロンとなっているのですから、人生とは思えないほどのものです。タレルに出会う前に、スザンヌさんをMOMA PS1に紹介したのは、メニール・コレクション (Menil Collection) のメニール夫人だということを知り、さらに驚きました。メニール・コレクションは、シュルレアリスムから抽象表現主義、ポップアートまで膨大なコレクションを所有する大コレクターであっただけでなく、世界で人権活動も広く行う人道主義者であり、慈善家でもありました。学生時代にメニール・コレクションでインターンをしていたスザンヌさんの力量を認めたメニール夫人は、その後約2年間、ニューヨークで一緒



スザンヌさん (中央) と、世界的に有名なメニール・コレクションのドミニク・デ・メニールさん (Dominique de Menil, 右)。そしてメニール・コレクション創立ディレクターのウォルター・ホップスさん (Walter Hopps, 左)。1978年、テキサスにて。



上：内側から見た「Twilight Epiphany」 Photo: Kevin Keim
 下：「Twilight Epiphany」の近くで撮影されたスザンヌさんとジェームス・タレル。2012年



テキサスのライス大学に寄贈したスザンヌ・ブース・ディール・センテニアル・パヴィリオン (the Suzanne Deal Booth Centennial Pavilion) と設置されたジェームス・タレルのインスタレーション「Twilight Epiphany」。2012年。photo: Casey Dunn



スザンヌさんとボスコ・ソディ (Bosco Sodi) とサイトスペシフィック・ワーク。ベラ・オークスのぶどう園 (Bella Oaks Vineyard) にて。



お気に入りのコレクションからアグネス・マーティン (Agnes Martin) 「Untitled」2004年。抽象は好みで、草間彌生の白の「Infinity Net」なども所有している。



Vik Muniz 「Portrait of Masashi Shiohara - Pictures of Chocolate」2012年

しおばら・まさし
 1962年群馬県生まれ。87年日動画廊入社。ギャラリー日動ニューヨークINC.代表、89年リオ・キャストリに会い、90年日動画廊にて現代アメリカ作家展「Leo Castelli's Artist」を手掛ける。2004年アート・オフィス・シオバラ設立。nca (日動コンテンツボラリーアート) 顧問も務める。「アート千本ノック」と称し、世界中のアートイベントを年間を通じて回る脚力は日本随一。世界のアートシーンの現場で築いてきた人脈とコアな情報を駆使しながら、コレクターが優れたコレクション形成する仕事に奔走している。

に暮らした時期もあったそうです。スザンヌさんの慈善家としての活動は、メンターとして慕うメニール夫人からの影響が大きいでしょう。この仕事が好きだと私が強く感じるのは、このようにアートを介して人とつながっていくところです。ボスコやタレルの作品を通してつながりが生まれ、新しい価値観が生じたり、素晴らしい考え方が後世へと受け継がれていくのです。最後に、これはアートの話ではないのですが、来年にはスザンヌさんの経営するワイナリーのワインが日本にはじめて輸入される予定だということです。さぞおいしいワインでしょうから、楽しみに待ちたいと思います。